

# 「藤岡市の災害対応を考える」のワークシート

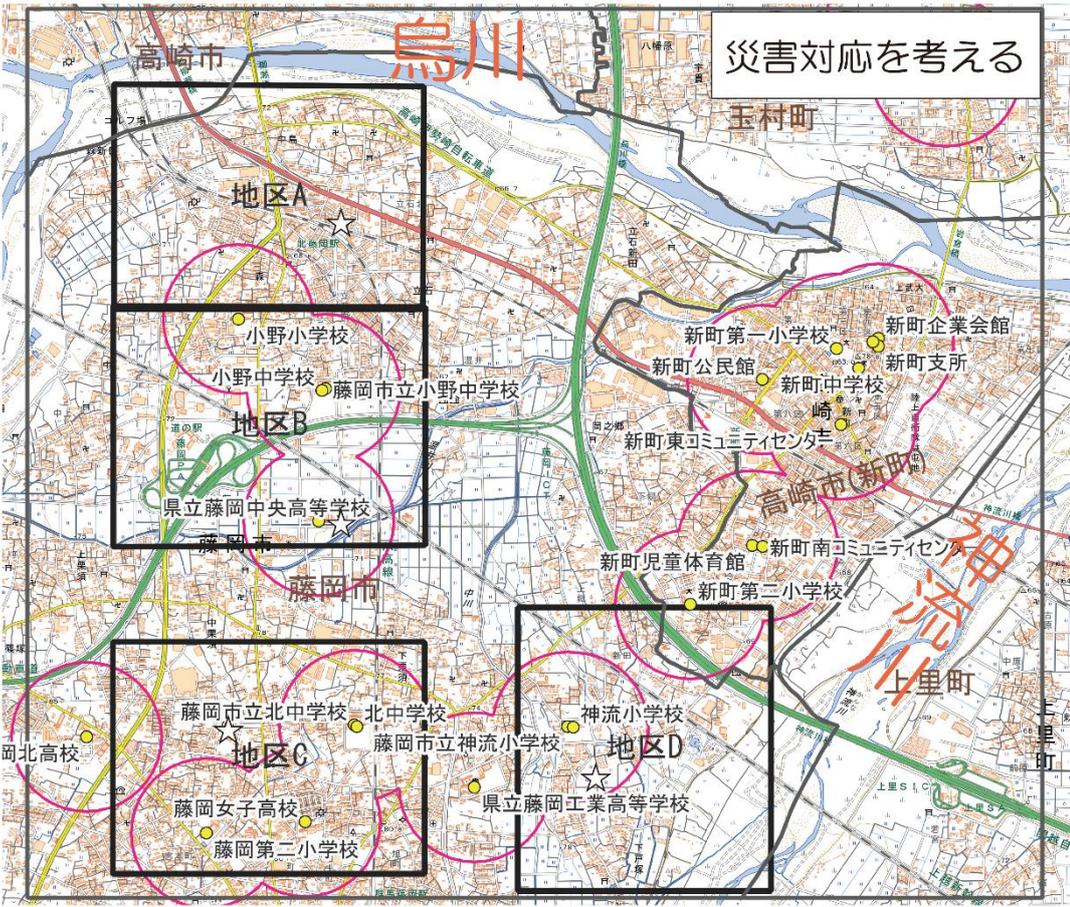
## 出典

国土数値情報～最新を使用

- ・行政区境
  - 行政区「群馬県のデータ」2024年（令和6年）
- ・避難施設データ「2012年度（平成24年度）」
  - 当該施設が対象とする災害の分類では「避難施設(水害)」のデータ

地理院地図タイル～最新を使用

- 標準地図



**災害対応を考える**

台風の影響で烏川と神流川で洪水が起こりそうなときに、あなたがA～Dの☆の所にいた場合、どのようなことを配慮して、どのような避難や対応をしたらよいと思いますか。下にまとめなさい。

A	北藤岡駅
B	藤岡中央高校
C	藤岡市役所
D	下戸塚の水田エリア

## 自分と周りにいる人間の避難を考える

- 1 洪水浸水リスクが高い地区**
  - ☆で洪水が発生しそうな時の、「避難先(避難方向)」「避難のタイミング」「周辺への配慮」を考える。
  - 【避難先の選択肢3つ】
    - ① 近くにある避難施設のどこか
    - ② 近くの「けんろう建物」の上層階
    - ③ 近くの洪水リスクの低い場所
  - 【避難のタイミング】
    - ・避難施設が遠い、近くに年寄りが多い場合は早期避難。
    - ・洪水リスクが高い所も早期避難。
  - 【周辺への配慮】
    - ・住宅地では、年寄り、沢山の人に遭遇する可能性がある。
    - ・農地では、洪水で水面下に隠れた水路に落ちる可能性がある。
- 2 洪水浸水リスクが低い地区**
  - ① 「想定外の洪水にそなえ」、リスクが高い所と同じように、万が一の時にそなえて避難行動を考える。
  - ② リスクが低いことで避難施設が開設され、周辺地区からの避難者が殺到して交通渋滞、交通事故、パニックによる負傷者発生など二次被害も想定されるため、そのことを特に注意する。

## 活用

最初、生徒には、紙ベースの「藤岡市の災害対応を考える」のワークシートを配布。その後、これまで配布してきた紙ベースの地図や、「ロイロノートスクール」でこれまでの授業で使用してきたWeb地図をよく見て、グループ内で相談しつつ読図をさせた。最後、グループを代表して何人かに各地区の読図結果を発表させることで、クラス全体の共有をはかって、そのあと、個々の生徒には「まとめ」として、個別にコンテンツに読図結果をまとめさせ、提出させた。

